

原爆復興70周年記念事業

長崎医科大学 原爆被災写真・資料展



長崎医科大学の講義室、コンクリートの土台を残し木造建物は瞬時に破壊され焼かれた。講義を受けていた多くの学生が犠牲となった。
左奥は図書館書庫

米国返還資料 NB403

場所：長崎大学 医学部 基礎研究棟 1階ロビー（長崎市坂本1丁目12番4号）

写真展示

平成27年 7月14日(火) ▶ 8月10日(月) 10~17時

資料展示

前期 7月14日(火) ▶ 7月18日(土) 10~17時

後期 8月 6日(木) ▶ 8月10日(月) 10~17時

主催：原爆復興70周年記念事業実行委員会 協賛：(公財)長崎平和推進協会 写真資料調査部会

長崎医科大学では学生、教職員あわせて898名が原爆の犠牲となりました。原爆犠牲学徒遺族会会長であった調 来助先生が全員の名前を永久に残すことを提案されました。先生は一人ひとりのお名前を手書きで下書きされ、松岡国一氏の彫刻で名碑が完成しました。昭和42年の原爆犠牲者慰霊祭で除幕式が行われました。被災者のご両親やご兄弟が亡くなられていくなか、原爆の惨事は次の世代にしっかりと語り継がなければなりません。原爆復興70周年を記念し、長崎医科大学および附属病院の被災写真並びに被災関連の資料を学生、職員、ご遺族の皆さまおよび一般の方々にご覧いただきたく展示いたします。

平成27年7月14日

原爆被災写真

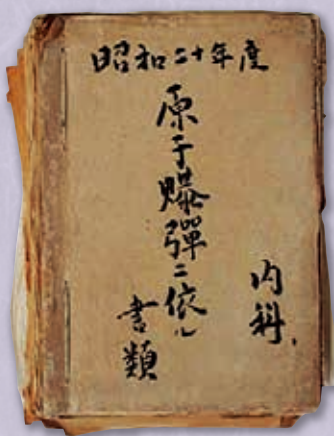


長崎医科大学附属医院の調理部厨房棟。黄色の化粧しつくい仕上げの上に黒の塗料を塗って偽装している。遠くからは灰色に見え、背後の丘陵と混じりあって見えにくくなることを期待したと思われる。

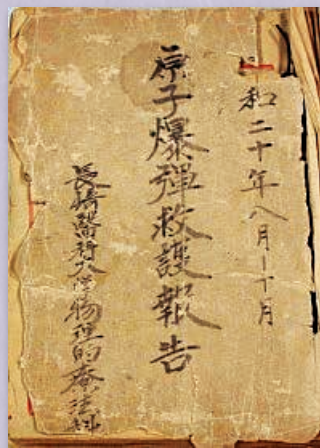


長崎医科大学で見つかった焼け焦げた顕微鏡

原爆被災関連資料



佐賀県立病院(現佐賀県医療センター好生館)で発見された診察記録(原本)



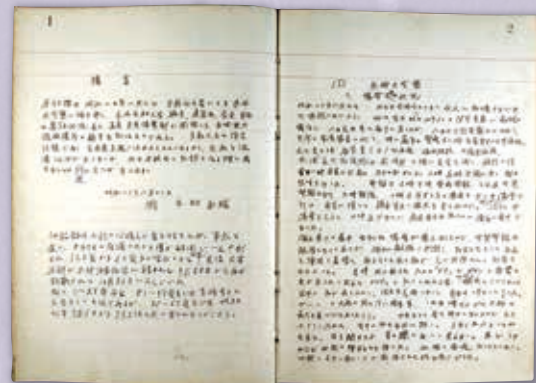
永井 隆博士の原子爆弾救護報告書(原本)



長崎医科大学の職員・学生の生存・死亡者数集計表(原本)



調 来助 教授の原子爆弾災害調査票(原本)



調 来助 教授の原爆被災復興日誌(原本)